



ゆめ!さくら博＆福祉まつりに参加した委員の声

好天に恵まれ最高のお祭り日和でした。来場された皆様が、楽しく笑顔で写真撮影に応じてくれたことが印象的でした。笑顔は人を幸せにしてくれるということを改めて実感できました。皆様ありがとうございました。

渡邊能辰 委員

編集後記

今年度のさくら市男女共同参画推進委員会のテーマは「DV」について。これまでの委員会で、また市長との意見交換会でも話し合いを重ねてきました。「DV」という言葉はなかなかのパワーワードで、大きな声で口にするのがはばかられるような、そんなイメージもあります。でも、大きな声どころか小さな声ですら、口に出せず、助けを求めることができない人は身近にもきっといます。最近廃れてしまったかもしれない「おせっかい」という小さなネットワークを繋ぎ合って、私もそのネットワークの一員として、時には助け、またある時には助けられる、強くて優しい社会を作っていくべきだと思います。

上野幸子 委員

さくら市 男女共同参画推進委員募集中

私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか?イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動ていきましょう!老若男女・国籍も問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください!

問 総合政策課 ☎681-1113

◆編集:さくら市男女共同参画推進委員会 ◆発行:さくら市総合政策部総合政策課

〒329-1392 さくら市氏家2771番地

TEL:028-681-1113 FAX:028-682-0360 E-mail:sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp

らい

あなたしく
生きられる
社会を目指して

ゆう

第35号
2025.11.30

ちょうどいい!
さくら市

SAKURA CITY



配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶

配偶者や交際相手に対する暴力(DV)や、児童・高齢者・障がい者に対する虐待は重大な人権侵害であり、男女がお互いの尊厳を重んじ、対等な関係づくりを進める男女共同参画社会の形成を大きく阻害します。

また、暴力には身体的なものだけでなく、精神的・経済的なものなど、様々な形が存在し、周囲に理解されず、被害者自身が暴力を受けていることを認識していない場合もあります。多くの人が暴力に関する正しい知識を持ち、被害者の早期発見や情報提供、助言などの支援を行える地域社会の実現を目指しましょう。

市長との意見交換会

令和7年10月8日(水)に「市長との意見交換会」を実施しました。DVに関するを中心には、多様性、地域コミュニティなど、幅広いテーマについて市長と意見を交わしました。内容の一部を紹介します。

1. DVについて

(委員)DV被害者の中には、相談までたどりつけない人もいるはず。

⇒(市長)相談には来ていなくても、実際には支援を要している方は多く存在すると思う。民生委員や近所の人も含めて社会全体で関わることが必要だと考えている。



2. 多様性について

(委員)LGBTの方にとって生きやすい時代になってほしい。

特別な扱いは不要だが、社会がもっと寛容になってほしい。

⇒(市長)男らしさ女らしさだけを求めるのではなく、寛容性や曖昧さを併せ持った社会であってほしい。広い心を持つためには、価値観、世代、職種が異なる色々な立場の人たちと話してみることが大事だと思う。



3. 地域コミュニティ

(委員)コロナ禍以降、自治会活動が少なくなってしまった。

また、自治会に加入しない一人世帯の方や、自治会を抜ける人も多くなっている。

⇒(市長)高齢世帯と若い世代との間に自治会活動に対する意識のギャップがあると思う。自治会での役割負担を見直してみることも必要なのではないか。



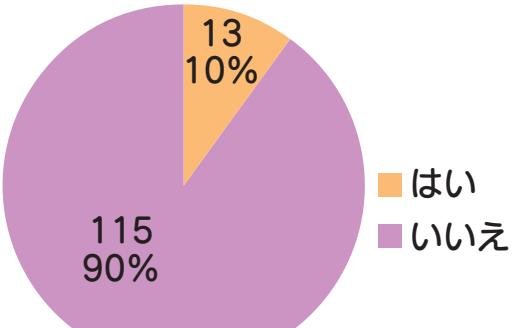
参加した委員の声

『DV』という言葉については、皆さん、多少なりとも耳にしたことがあると思いますが、身体的暴力はもちろんのこと、精神的・経済的な暴力など多岐にわたります。市長は職員時代に様々な経験をされており、多方面からの意見を聞くことができ、参加した委員の皆さんも充実した時間を過ごせたと思います。話の中で特に、市長が仰っていたのは、相談件数は氷山の一角であり、支援が必要な家庭は山ほどあり、社会全体で見守る必要があるということでした。

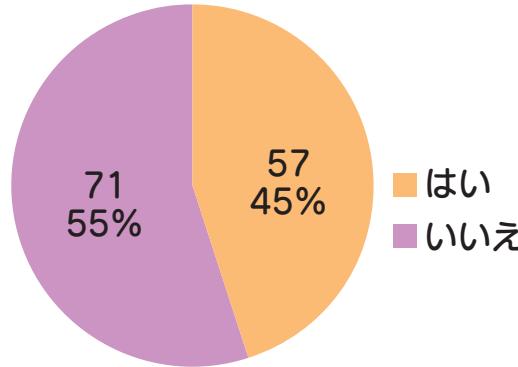
大橋克世 委員

ゆめ!さくら博&福祉まつり2025で「DV」に関するアンケートを実施しました!

問1 (まわりの人で)DVで困っている人を知っていますか?



問2 どこにDVの相談をすればよいか、DVの相談機関を知っていますか?



DV(配偶者等に対する暴力)に関する展示とアンケートを実施しました。DVとはどのようなものか(身体的・精神的・経済的・性的・社会的暴力など)と、相談機関の存在を知って頂くことを目的とし、アンケートに回答頂いた方々に県のDV被害者支援ハンドブックなどを配りました。

お子様連れの女性をはじめ、幅広い世代の男女128名にご回答頂き、結果はグラフの通りとなりました。1割の方が身近にDVの存在を感じていて、約半数の方が専門の相談機関があることを知っているようです。回答者の中には、過去にDVを経験された方もいて、精神的な暴力が一番きつい…と当時の心情をお話してくださいました。またアンケート中に、以前行政でDV相談員をされていた方から偶然お話を聞くことができ、「今日帰る場所がない」という切羽詰まった状況で相談に来た方を一時保護したり、県内外の居住先確保を支援したりされていたそうです。

今回のアンケート結果では「身近にDVで困っている人がいる」が1割とこちらの想定よりも少ない印象ですが、もしかすると、周囲にも相談できずにいる被害者が少なくないことを示しているかもしれません。もしDVで辛い思いをしている人がいたら、どうか一人で悩まずに、周りの人や相談機関に是非相談してほしいと思います。

鈴木知恵 委員



今回のアンケートには合計128名の方にご協力いただきました。ありがとうございました!